

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査結果について

— 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 —

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○調査の実施学年

小学校(特別支援学校小学部を含む)第6学年 約 11,450名

中学校(特別支援学校中学部を含む)第3学年 約 8,760名

○児童生徒に対する調査

〈教科に関する調査〉

小学校調査 - 国語・算数 中学校調査 - 国語・数学

A 主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

B 主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

〈質問紙調査〉

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

○調査実施日 平成26年4月22日(火)

教科に関する調査結果の概要

1 教科に関する調査の平均正答率

| | | 小学校調査 | | | | 中学校調査 | | | |
|-------------------------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 国語 | | 算数 | | 国語 | | 数学 | |
| | | A | B | A | B | A | B | A | B |
| 平成26年度 平均正答率 (公立) | 川崎市 | 73.2% | 57.6% | 79.1% | 60.9% | 80.6% | 52.6% | 67.9% | 61.5% |
| | 全国 | 72.9% | 55.5% | 78.1% | 58.2% | 79.4% | 51.0% | 67.4% | 59.8% |

* A問題：主として「知識」に関する問題、B問題：主として「活用」に関する問題

2 全体の傾向

本市では、小学校、中学校の国語、算数・数学それぞれのA・B問題において、いずれの平均正答率も全国を上回っている。

A問題では、全国の平均正答率の差は0.3ポイント以上、1.2ポイント以内であった。B問題では、1.6ポイント以上、2.7ポイント以内であった。いずれの教科においても本市の平均正答率と全国の平均正答率との差は、A問題に比べてB問題の方が大きい。

① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示すとおりであるが、領域ごとの結果の概要については、個々の問題について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。

- ◇：よい状況と考えられる問題
- ◆：課題があると考えられる問題

小学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 故事成語の意味や使い方を理解する。
■ 物語を創作する際、情景描写の効果を捉える。
■ 新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える。
■ 話合いの観点に基づいて情報を関係付ける。

国語B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 討論会を計画的に進めるために、司会は観点を整理したり、参加者は立場を明確にして質問や意見を述べたりする。
■ 科学に関する本や文章を効果的に読み、分かったことや疑問に思ったことを関係づけながらまとめる。
■ 二つの詩を比べて読み、内容や表現の工夫を捉え、自分の考えを書く。

○全体の傾向

A問題では全15設問中4問で正答率が80%を上回っている。60%を下回った設問は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学年別配当漢字を書く設問1二(2)「祝う」の53.6%、故事成語の意味と使い方を理解する設問2一「五十歩百歩」の50.8%、2二「百聞は一見にしかず」の51.3%である。また、全国の平均正答率と比較して、3ポイント以上高い設問は3問で、低い設問は3問である。特に、情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する設問3は正答率66.1%で、全国より7.4ポイント高くなっている。

B問題では、すべての設問において全国の平均正答率を上回っている。3ポイント以上高い設問は2問で、低い設問はない。特に、疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く設問2三は正答率69.9%で、全国より3.9ポイント高くなっている。また、記述式設問の平均正答率は35.9%である。

○領域ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◆(B1三) 目的や意図に応じて、計画的に討論する設問において、立場を明確にして、質問や意見を述べることについては、課題がある。(29.7%)

書くこと

- ◇(A6二) 文や文章の構成を理解し、適切な表現にして書く設問において、仮定の表現として、適切なものを捉えることについては、相当数の児童ができています。(83.6%)
- ◆(B2二) 科学に関する本や文章を効果的に読み、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く設問において、条件に応じてまとまった文章を書くことについては、課題がある。(29.1%)

読むこと

- ◆ (B 3 二) 二つの詩を比べて読み、内容や表現の工夫を捉えるとともに、それらについて自分の考えを書く設問において、詩の解釈における着眼点の違いを捉えることについては課題がある。(50.3%)
- ◆ (B 3 三) 二つの詩を比べて読み、内容や表現の工夫を捉えるとともに、それらについて自分の考えを書く設問において、二つの詩を比べ読んだことを書くことについては課題がある。(49.0%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ (A 1 一(1)(2)) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことについては、相当数の児童ができています。(1)標識 91.2% (2)街灯 86.9%
- ◆ (A 2) 故事成語の設問において、意味と使い方を理解することについては、課題がある。
(一)五十歩百歩 50.8% (二)百聞は一見にしかず 51.3%
- ◆ (A 1 二(2)) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことについては、課題がある。(2)祝う 53.6 %

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べる

討論においては、課題解決のために互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べることが重要である。そのためには、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えとの共通点や相違点を明確にして聞くことが大切である。

具体的な指導としては、話し手の発言内容の中から、中心となる考え、理由や根拠などを、短い言葉で要約してメモなどに書き留めるような指導が有効である。

書くこと

○分かったことや疑問に思ったことを、条件に応じてまとめた文章にして書く

必要な情報を取り出し、分類したり関係づけたりした上で全体を通して分かったことや考えたことを一定のまとめた文章にして書くことが重要である。その際、「二文を一文にして書くこと」や「『例えば』という言葉を使って書くこと」など構成や記述などについて、条件を示すことが有効である。

読むこと

○詩の解釈における着眼点の違いを捉える

詩を様々な着眼点から解釈し、考えたことを交流することは重要である。そのためには、自分の考えと相手の考えを比較しながら、共通点や相違点を整理することができるように指導することが大切である。その際、互いの考えを分類して、どのような着眼点に基づくものかを明確にすることが重要である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で用いる

故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で起こる出来事や、その様子を故事成語を用いて表すことは重要である。そのためには、長い間使われてきた故事成語に興味をもち、その意味を調べてカードに記録するなど、先人の知恵や教訓、機知に触れることを設けるなどして、計画的に指導することが重要である。

小学校 算数

○調査問題の趣旨・内容

算数A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 示された図から基準量と割合を読み取り、比較量を求める式として正しいものを選ぶ。
■ 単位量当たりの大きさを求める式をかく。
■ 作図に用いられる平行四辺形の特徴を選ぶ。
■ 四則の混合した式で求められる問題を選ぶ。

算数B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 示された計算のきまりを基に、工夫して計算する理由を記述する。
■ 最大値に着目してグラフに表すことができない理由を記述する。
■ 公倍数に着目して3つの数量の関係を記述する。
■ 示された情報を基に筋道立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する。

○全体の傾向

A問題では、全17設問中11問で正答率が80%を上回っている。60%を下回った設問は、示された図を基に0.4倍に当たる長さを求める式を選ぶ設問2(2)の54.5%、平行四辺形を作図するときに、用いられる平行四辺形の特徴を選ぶ設問6の50.1%である。また、全国の平均正答率と比較して、3ポイント以上高い設問は5問で、低い設問はない。特に、直方体の見取り図から、この直方体の面の四角形を選ぶ設問7は正答率73.8%で、全国より4.4ポイント高くなっている。

B問題では、全国の平均正答率と比較して、3ポイント以上高い設問は6問で、低い設問はない。特に、ある月の水の使用量が、1年間の水の使用量の $1/4$ より多いことを説明するとき用いる適切なグラフを選ぶ設問2(3)は正答率67.3%で、全国より5.8ポイント高くなっている。また、記述式設問の平均正答率は51.4%である。

○領域ごとの結果の概要

数と計算

- ◇ (A1(6)) $1/3 + 2/5$ を計算する設問において、異分母の分数の加法を計算することは、相当数の児童ができています。(88.4%)
- ◆ (A2(2)) 示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さの0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ設問において、乗法の意味を理解し、正しい式を選ぶことについては、課題がある。(54.5%)

量と測定

- ◇ (A4(1)) 8 m^2 に16人いる部屋の様子を表している図を選ぶ設問において、単位量当たりの大きさを調べる場面と図を関連付けることは、相当数の児童ができています。(84.5%)
- ◆ (B3(3)) 示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを判断し、その理由を記述する設問において、判断の理由を過不足なく示し、理由を説明することについては、課題がある。(34.6%)

図形

- ◇ (A5(1)) 直径6cmの円の円周の長さを求める設問において、直径の長さを用いて円周の長さを求めることは、相当数の児童ができています。(84.0%)

- ◆ (A6) コンパスを使って平行四辺形を作図するとき、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ設問において、作図に用いられる図形の約束や性質を理解することについては、課題がある。(50.1%)

数量関係

- ◇ (A8) 答えが $100 - 20 \times 4$ の式で求められる問題を選ぶ設問において、四則の混合した式の意味を理解することは、相当数の児童ができている。(84.1%)
- ◆ (B5(3)) 妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求める方法を記述する設問において、示された情報を整理して、筋道立てて考え、小数倍の長さの求め方を言葉、図、式で説明することについては、課題がある。(37.3%)

○授業改善に向けて

数と計算

○小数倍の意味を図と関連付けて理解する

日常の場面から、基準量と比較量を捉え、数量の関係(基準量、比較量、割合)を図に表したり、図から読み取ったりすることが大切である。また、倍に関する学習は第2学年から系統的に展開されており、整数の乗法についての理解を基に、小数の乗法の場合も同じように考え、小数倍についての理解を深めることが大切である。

量と測定

○問題の解決に必要な情報を見出し、数学的な表現を用いて説明する

問題を解決した過程を他者に説明する際には、問題から必要になる情報を選択するとともに、情報を関連付けて、根拠となる事実や判断の理由を的確に表現することが大切である。その際、表現したことを振り返り、比較する対象が明確になっているか、説明の根拠となる情報が示されているか等を確認することで表現を洗練することが大切である。

図形

○図形の約束や性質と、操作とを関連付けて理解する

図形の学習で展開される作図指導において、用いる道具の操作と、その意味を関連付けて理解することが、図形の約束や性質についての理解を深める上で大切である。また、図形の作図においては、かき方の指導に重点が置かれることが多いため、作図を通して図形の理解を深めることを意識して指導することが大切である。

数量関係

○示された情報を整理し、筋道立てて考え、求め方を言葉や式で表現する

解決方法を説明するためには、問題解決に用いる情報は何か、また、どの情報をどのような用いればよいかを明確にし、筋道立てて考えることが大切である。問題解決に用いる情報を書き出し、それらを使って解決の筋道を明確にし、求め方を言葉や式を用いて的確に表現できるようにすることが大切である。

中学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A ー基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■ フリップの効果を説明したものとして適切なものを選択する。

■ 仲直りができてうれしい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える。

■ 主人公が「素通りが出来なくなる」と思った理由として適切なものを選択する。

■ 古文に当てはまる言葉を昔話の中から抜き出す。

国語B ー基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■ ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く。

■ 水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く。

■ 落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く。

○全体の傾向

A問題では、全32問中、21問で正答率が80%を上回っている。60%を下回った設問は、「話すこと・聞くこと」の6-1の二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する設問の56.0%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の8-1及び8-2の文脈に即して漢字を正しく書く設問で「招待」の54.3%、「半径」の55.1%である。また、全国の平均正答率と比較して、3ポイント以上高い設問は3問で、低い設問は2問である。特に、話合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する設問6-2は正答率80.8%で、全国より4.8ポイント高くなっている。

B問題では、全国の平均正答率と比較して、3ポイント以上高い設問は3問で、低い設問は1問である。また、記述式設問に関して、平均正答率は43.4%であり、無解答率はすべての設問において全国を下回っている。

○領域ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

◇ (A1-2) 調理実習の報告会をテーマに、報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する設問において、必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出すことは相当数の生徒ができています。(81.7%)

◆ (A6-1) 二人の発言を聞いて意見の相違点を整理するために、発言の中にある言葉を使って六字以内で書く設問において、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討することについては課題がある。(56.0%)

書くこと

◇ (A2-1) 主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写として適切なものを選択する設問において、心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加えることは、相当数の生徒ができています。(92.3%)

◆ (B2-3) 水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができるようになる理由を書く設問において、資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことについては課題がある。(29.8%)

読むこと

◇ (A3-1) 主人公が「素通り出来なくなる」と思った理由として適切なものを選択する設問において、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することについては、相当数の生徒ができています。(92.6%)

- ◆ (B 2一) 本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する設問において、複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることについては課題がある。(30.6%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ (A 8三) 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについて選択する設問において、アの「急がば回れ」を除き相当数の生徒ができている。
イ とりあえず 97.1% ウ 継承 80.7% エ 笑う門には福来る 90.7%
オ ご案内します 94.3% カ 単刀直入 87.1% キ 伸ばす 93.3%
- ◇ (A 8五1) 歴史的仮名遣い「まうけて」を現代仮名遣いに直して読むことは、相当数の生徒ができている。(80.4%)
- ◆ (A 8一) 文脈に即して漢字を正しく書くことについては、課題がある。
1 招待 54.3% 2 半径 55.1%

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○話し合いの目的を踏まえた上で、観点に沿って発言を整理する

複数の案から一つに絞り込む話し合いを行う際には、目的に応じて発言を整理しながら、議論の焦点を明確にする必要がある。例えば、図表を用いるなどして、共通点や相違点など様々な観点に沿って発言を整理する学習活動が有効である。その際、どのような観点を整理するかを明確にし、どのような図表を活用するのが有効かを考えることが大切である。

書くこと

○根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く

本や文章を読んで考えたことを具体的に書く力を身に付けるために、本や文章のどの部分に特に興味や関心をもったのかを明確に示した上で、なぜそこに着目したのか、その内容について自分はどのように考えるのかなどを丁寧に書くよう指導することが大切である。例えば、引用した箇所と自分の考えとの関連、根拠として取り上げた内容の妥当性など、書いた文章を複数の観点から見直すことが重要である。その際、自分の考えに照らして、根拠として取り上げた引用や要約の量は適切か否かも考えることが大切である。

読むこと

○目的に応じて文章の要旨を的確に捉える

目的に応じて文章の要旨を的確に捉えるためには、文章の特徴を踏まえて内容を正確に理解する必要がある。例えば、説明的な文章を読んで、更に調べたい内容を明確にした上で、様々な資料から必要な情報を的確に得る学習活動が有効である。その際、読む目的を明確にした上で、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要な情報を正しく得るよう指導することが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○文脈に即して漢字を正しく書く

漢字を書くことの指導においては、漢字の字形や画数、読みや意味などの基本的な事項を確実に指導する必要がある。その際、字形の似ている漢字のそれぞれの意味を理解させるとともに、部首との関連や熟語や文中でどのような意味で用いられているかを確認させることが大切である。

中学校 数学

○調査問題の趣旨・内容

数学A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 正の数と負の数とその計算、文字式を計算する。一元一次方程式、連立二元一次方程式を解く。
- 証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する。
 - 与えられた表を基に、2つの数量の関数関係を表現する。一次関数のグラフを選ぶ。
 - ある階級の相対度数を求める。樹形図を利用して確率を求める。

数学B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 図形の性質を用いて、横断幕を取り付ける適切な位置を求める方法を説明する。
- 2つの偶数の商について正しい記述を選び、その理由を説明する。
 - 2つの線分の長さが等しいことを証明する。
 - スティックゲームの得点のとりやすさについて正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する。

○全体の傾向

A問題では、全36設問中9問で正答率が80%を上回っている。60%を下回った設問は11問で、40%を下回った設問は、重量と料金の関係を「○○は、△△の関数である。」という形で表現する設問9の37.8%、通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める設問13(1)の39.3%である。また、全国の平均正答率と比較して、3ポイント以上高い設問は7問で、低い設問は2問である。特に、変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ設問11(1)は正答率55.3%で全国より8.0ポイント高くなっている。

B問題では、全国の平均正答率と比較して、3ポイント以上高い設問は4問で、低い設問はない。また、記述式設問に関して、平均正答率は46.3%であり、無解答率はすべての設問において全国を下回っている。

○領域ごとの結果の概要

数と式

- ◇ (A3(1)) 一元一次方程式を解くとき、移項が行われている式変形として正しいものを選ぶ設問において、等式の性質と移項の関係を理解することは、相当数の生徒ができています。(90.1%)
- ◆ (B2(3)) 2つの偶数の商について正しい記述を選び、その理由を説明する設問において、予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することについては、課題がある。(44.6%)

図形

- ◇ (A5(2)) 三角形を平行移動してできる立体を選ぶ設問において、三角形をその面と垂直な方向に平行移動させると、三角柱ができることを理解することは、相当数の生徒ができています。(84.4%)
- ◆ (A6(3)) n 角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ設問において、 n 角形の内角の和を求める式の意味を理解することについては、課題がある。(49.7%)

関数

- ◇ (B6(2)) 兄の速さを変えないときに、弟と兄の進む様子を表すグラフを選ぶ設問において、グラフの特徴を事象に即して捉えることは、相当数の生徒ができています。(80.3%)

- ◆ (A10(4)) 反比例のグラフから表を選ぶ設問において、反比例の関係を表とグラフを関連付けて理解することについては、課題がある。(41.8%)

資料の活用

- ◇ (B5(1)) ステックゲームの遊び方を基に、得点を求める設問において、樹形図を利用して与えられた情報を分類整理することは、相当数の生徒ができている。(81.4%)
- ◆ (A13(1)) 度数分布表から相対度数を求める設問において、ある階級の相対度数を求めることについては、課題がある。(39.3%)

○授業改善に向けて

数と式

○事柄が成り立つかどうかの判断に応じて、判断した理由を説明する

事柄が成り立つかどうかの判断に応じて理由を説明できるようにするために、成り立つと判断した場合には文字式を用い、成り立たないと判断した場合には反例をあげ、それぞれの説明する活動を充実することが大切である。特に、事柄が成り立たない場合には、反例を1つあげて、それを根拠とすることで説明が成り立つことを理解できるようにすることが大切である。

図形

○多角形の内角の和を表す式の意味を理解する

多角形の内角の和を表す式が、多角形の三角形の分割によって導き出されることを理解できるようにするために、様々な多角形を考察することを通して、多角形の内角の和を表す式を導いたり、その式の意味を読み取ったりする場面を設定することが大切である。特に、多角形の内角の和を表す式の意味について考えるときには、式の $(n-2)$ を分割してできる三角形の個数や多角形の構成要素と対応させ、その意味を理解できるようにすることが大切である。

関数

○二つの数量の関係について表、式、グラフを相互に関連付ける

反比例の特徴を、表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるようにするために、表やグラフから比例定数を読み取って式に表したり、比例定数の符号や絶対値の違いによる変化の様子の違いを捉えたりする活動を重視することが大切である。

資料の活用

○相対度数の必要性と意味を理解し、資料の傾向を読み取る

相対度数の必要性と意味について理解を深めるようにするために、度数分布表やヒストグラムに基づき、ある階級の度数が総度数に占める割合を求め、その割合を用いて資料の傾向を読み取る活動を重視することが大切である。

② 学習や生活習慣などに関する質問紙調査

「質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合も含めている。

<学習に対する関心・意欲・態度>

国語

【小学校】

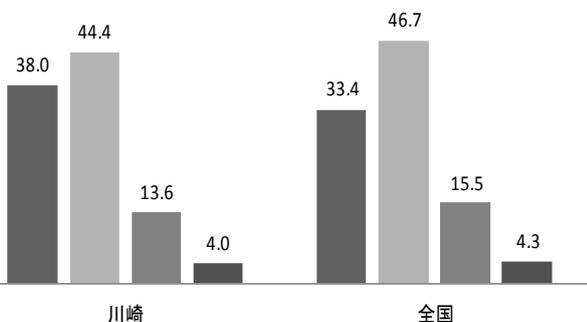
| | | |
|------------------------------------|-------------------------------|----------|
| ○国語の授業の内容がよく分かる。 | H21 79.1%→H25 80.2%→H26 82.4% | 全国 80.1% |
| ○国語の勉強が好き。 | H21 59.4%→H25 58.0%→H26 60.9% | 全国 59.2% |
| ○国語の勉強は大切だと思う。 | H21 90.6%→H25 90.7%→H26 92.0% | 全国 91.8% |
| ○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。 | H21 82.6%→H25 86.1%→H26 86.4% | 全国 87.4% |

【中学校】

| | | |
|------------------------------------|-------------------------------|----------|
| ○国語の授業の内容がよく分かる。 | H21 70.9%→H25 73.2%→H26 72.1% | 全国 72.0% |
| ○国語の勉強が好き。 | H21 58.8%→H25 59.9%→H26 59.4% | 全国 58.2% |
| ○国語の勉強は大切だと思う。 | H21 88.3%→H25 88.1%→H26 88.4% | 全国 89.0% |
| ○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。 | H21 78.9%→H25 81.0%→H26 81.3% | 全国 82.5% |

小学校 国語の授業の内容がよく分かる

■ 当てはまる ■ どちらかと言えば ■ どちらかと言えば ■ 当てはまらない



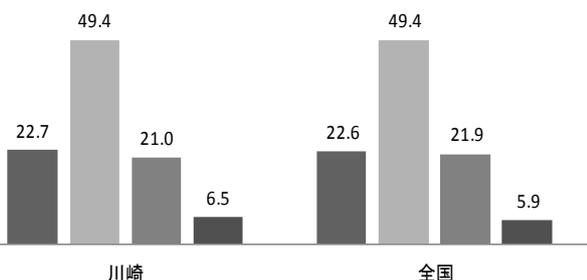
小学校では、「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した児童の割合は、約8割、「国語の勉強が好き」は、約6割、「国語の勉強は大切だ」は約9割である。

「国語の授業の内容がよく分かる」の設問に対しては、「当てはまる」38.0%、「どちらかといえば当てはまる」44.4%、「どちらかといえば当てはまらない」13.6%、「当てはまらない」4.0%である。

全国と比べると「当てはまる」と回答した児童の割合は4.6ポイント高い。

中学校 国語の授業の内容がよく分かる

■ 当てはまる ■ どちらかと言えば ■ どちらかと言えば ■ 当てはまらない



中学校では、「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した生徒の割合は、約7割、「国語の勉強が好き」は約6割、「国語の勉強は大切だ」は約9割弱である。小学校と比べても「国語の大切さ」「国語が好き」の割合には、大きな変化がない。

「国語の授業の内容がよく分かる」の設問に対しては、「当てはまる」22.7%、「どちらかといえば当てはまる」49.4%、「どちらかといえば当てはまらない」21.0%、「当てはまらない」6.5%である。

全国と比べると「当てはまらない」と回答した生徒の割合は0.6ポイント高い。

<学習に対する関心・意欲・態度>

算数・数学

【小学校】

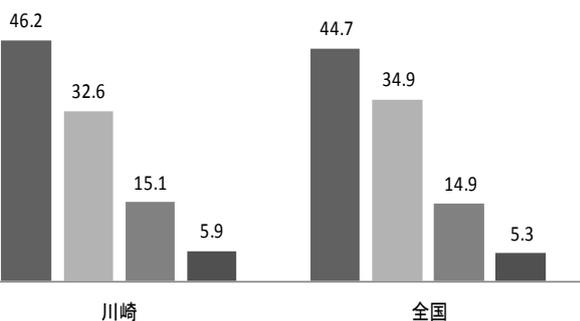
| | | |
|------------------------------------|-------------------------------|----------|
| ○算数の授業の内容がよく分かる。 | H21 76.8%→H25 78.9%→H26 78.8% | 全国 79.6% |
| ○算数の勉強は好き。 | H21 63.3%→H25 64.5%→H26 64.4% | 全国 66.1% |
| ○算数の勉強は大切だと思う。 | H21 91.9%→H25 91.8%→H26 92.2% | 全国 92.3% |
| ○算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。 | H21 86.1%→H25 87.8%→H26 88.1% | 全国 89.0% |

【中学校】

| | | |
|------------------------------------|-------------------------------|----------|
| ○数学の授業の内容がよく分かる。 | H21 62.8%→H25 69.3%→H26 69.8% | 全国 71.5% |
| ○数学の勉強は好き。 | H21 51.2%→H25 53.8%→H26 55.8% | 全国 56.6% |
| ○数学の勉強は大切だと思う。 | H21 73.1%→H25 76.9%→H26 79.3% | 全国 82.1% |
| ○数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。 | H21 59.1%→H25 64.1%→H26 66.6% | 全国 71.4% |
| ○数学ができるようになりたい。 | H21 90.3%→H25 90.4%→H26 90.8% | 全国 91.3% |

小学校 算数の授業の内容がよく分かる

■ 当てはまる ■ どちらかと言えば ■ どちらかと言えば ■ 当てはまらない



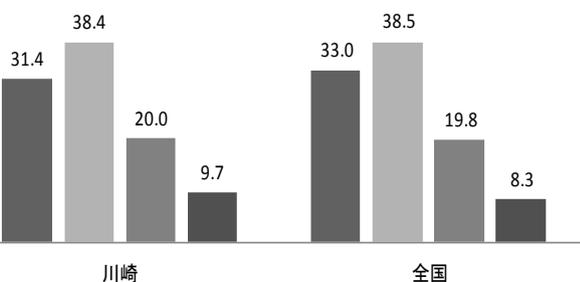
小学校では、「算数の授業の内容がよく分かる」と回答した児童の割合は、約8割弱、「算数の勉強が好き」は約6割強、「算数の勉強は大切だ」は約9割である。

「算数の授業の内容がよく分かる」の設問に対しては、「当てはまる」46.2%、「どちらかと言えば当てはまる」32.6%、「どちらかと言えば当てはまらない」15.1%、「当てはまらない」5.9%である。

全国と比べると「当てはまる」と回答した児童の割合は1.5ポイント高いが、「当てはまらない」は0.6ポイント高い。

中学校 数学の授業の内容がよく分かる

■ 当てはまる ■ どちらかと言えば ■ どちらかと言えば ■ 当てはまらない



中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」と回答した生徒の割合は、約7割、「数学の勉強が好き」は約5割強、「数学の勉強は大切だ」は約8割である。小学校と比べると「数学の大切さ」「数学が好き」の割合が約1割低くなっている。

「数学の授業の内容がよく分かる」の設問に対しては、「当てはまる」31.4%、「どちらかと言えば当てはまる」38.4%、「どちらかと言えば当てはまらない」20.0%、「当てはまらない」9.7%である。

全国と比べると「当てはまる」と回答した生徒の割合は1.6ポイント低く、「当てはまらない」は1.4ポイントと高い。

一方、「数学ができるようになりたい」と回答した生徒の割合は9割を越えている。今後とも、数学ができるようになりたいという生徒の学ぶ意欲を大切にしながら、きめ細やかな分かる授業づくりを小中学校で進めていく必要がある。

<自尊意識>

【小学校】

○自分には、よいところがあると思う。

H21 70.5%→H25 74.3%→H26 78.4% 全国 76.1%

○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。

H21 69.5%→H25 73.1%→H26 75.9% 全国 75.1%

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

H21 92.9%→H25 94.4%→H26 95.1% 全国 94.4%

【中学校】

○自分には、よいところがあると思う。

H21 55.9%→H25 65.0%→H26 65.4% 全国 67.1%

○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。

H21 56.9%→H25 63.4%→H26 66.7% 全国 68.0%

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

H21 91.2%→H25 94.1%→H26 94.9% 全国 93.9%

<将来に関する意識>

【小学校】

○将来の夢や目標を持っている。

H21 83.0%→H25 85.2%→H26 85.1% 全国 86.7%

【中学校】

○将来の夢や目標を持っている。

H21 68.4%→H25 71.1%→H26 69.7% 全国 71.4%

「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は4.1ポイント、中学校は0.4ポイント高く、平成21年度と比べると、小学校は7.9ポイント、中学校は9.5ポイント高くなっている。

また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は2.8ポイント、中学校は3.3ポイント高く、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも約95%で、ともに全国の割合を上回っている。このことから、失敗を恐れなくて挑戦し、最後までやり遂げた体験をしている児童生徒が増えていることがうかがわれる。

「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は25年度と比べると小中学校とも大きな変化はなく、小学校で約8割強、中学校で約7割である。

<学習状況>

≪言語活動≫

【小学校】

- 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。
H21 59.9%→H25 54.0%→H26 50.4% 全国 57.6%
- 400 字詰め原稿用紙 2～3 枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。
H21 63.4%→H25 59.0%→H26 56.7% 全国 63.4%

【中学校】

- 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。
H21 71.7%→H25 64.0%→H26 61.8% 全国 67.2%
- 400 字詰め原稿用紙 2～3 枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。
H21 70.4%→H25 66.0%→H26 62.8% 全国 66.8%

【小学校】

- 5年生までに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思う。
新規 H26 82.4% 全国 77.3%
- 5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。
新規 H26 86.4% 全国 84.9%
- 5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
新規 H26 84.8% 全国 83.7%

【中学校】

- 1, 2年生のときに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思う。
新規 H26 48.3% 全国 46.5%
- 1, 2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思う。
新規 H26 79.8% 全国 75.3%
- 1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
新規 H26 80.9% 全国 81.1%

「授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は3.6ポイント、中学校は2.2ポイント低く、21年度と比べると、小学校は9.5ポイント、中学校は9.9ポイント低く改善している。

また、新規の設問「授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていた」「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも全国より高い割合になっている。

このことから、自分の考えを書き、お互いの考えを出し合い、話し合ういわゆる思考力・判断力・表現力等を育てる授業づくりが小中学校を通じて進められていると考える。

<学習時間等>

【小学校】

(家庭学習)

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている。 H21 54.4%→H25 55.3%→H26 58.4% 全国 61.0%
- 家で、学校の授業の予習をしている。 H21 31.0%→H25 33.4%→H26 37.4% 全国 43.2%
- 家で、学校の授業の復習をしている。 H21 31.9%→H25 35.0%→H26 39.9% 全国 54.0%
- 家で、学校の宿題をしている。 H21 93.4%→H25 95.2%→H26 95.7% 全国 96.5%

(学習時間)

- 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。 H21 57.0%→H25 57.8%→H26 57.1% 全国 62.0%
- 学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする。 H21 48.3%→H25 51.9%→H26 51.7% 全国 55.9%

(学習塾)

- 学習塾で勉強をしている。 H21 60.6%→H25 62.0%→H26 60.0% 全国 47.6%

【中学校】

(家庭学習)

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている。 H21 36.1%→H25 42.2%→H26 45.0% 全国 46.6%
- 家で、学校の授業の予習をしている。 H21 25.6%→H25 32.0%→H26 34.0% 全国 34.2%
- 家で、学校の授業の復習をしている。 H21 29.7%→H25 36.8%→H26 38.9% 全国 50.4%
- 家で、学校の宿題をしている。 H21 76.0%→H25 78.6%→H26 81.8% 全国 88.2%

(学習時間)

- 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。 H21 63.7%→H25 69.5%→H26 68.6% 全国 67.9%
- 学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする。 H21 51.9%→H25 60.1%→H26 60.4% 全国 67.4%

(学習塾)

- 学習塾で勉強をしている。 H21 70.0%→H25 71.9%→H26 72.3% 全国 60.4%

「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は3.1ポイント、中学校は2.8ポイント高くなっている。また、「家で、学校の授業の予習をしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校は4.0ポイント、中学校は2.0ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した児童生徒の割合が、小学校は4.9ポイント、中学校は2.1ポイント、25年度と比べると高くなっている。

しかし、全般に家庭学習については、全国と比べると割合がやや低い傾向がうかがわれる。学習塾で勉強する割合が全国より小中学校とも10ポイント以上高いことなどの関連が考えられるが、学校と家庭が情報を共有して家庭学習の習慣づくりを進めていく必要がある。

<学校生活等>

【小学校】

| | | |
|---------------------------------|---------------------|--------------------|
| ○学校に行くのは楽しいと思う。 | H25 86.1%→H26 88.8% | 全国 86.6% |
| ○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。 | 新規 | H26 87.3% 全国 86.5% |
| ○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。 | 新規 | H26 82.4% 全国 79.7% |

【中学校】

| | | |
|---------------------------------|---------------------|--------------------|
| ○学校に行くのは楽しいと思う。 | H25 80.1%→H26 81.9% | 全国 82.4% |
| ○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。 | 新規 | H26 84.2% 全国 84.5% |
| ○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。 | 新規 | H26 74.7% 全国 74.1% |

「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は2.7ポイント、中学校は1.8ポイント高くなっている。

新規の設問「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも8割を超えており、仲間と協力して何かをやり遂げる経験を多くしていることがうかがえる。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒の割合は、小学校は約82%、中学校は約75%で、全国の平均を上回っている。

今後とも、学校では、子ども同士が協力し合い、やり遂げた喜びを感じられる教育活動を進めるとともに、教師が子どものよさを具体的に認め、評価していくことが重要である。

<家庭でのコミュニケーション等>

【小学校】

○家の人と学校での出来事について話をする。 H21 68.5%→H25 75.0%→H26 81.2% 全国 80.4%

○家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ている。

新規 H26 96.1% 全国 96.5%

【中学校】

○家の人と学校での出来事について話をする。 H21 56.7%→H25 64.0%→H26 70.1% 全国 72.6%

○家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ている。

新規 H26 84.2% 全国 83.1%

「家の人と学校での出来事について話をする」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は6.2ポイント、中学校は6.1ポイント高く、21年度と比べると、小学校12.7ポイント、中学校は13.4ポイント高くなっている。また、「家の人、授業参加や運動会などの学校の行事に来ている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で9割、中学校で8割を超えている。

このことは、子どもたちの意識だけでなく、保護者も積極的に学校行事等に参加して、学校の出来事を家庭で話題にしていることがうかがわれる。今後とも、学校と保護者・地域が行事等の情報を共有し、一緒に学校や地域づくりを進めることが、家庭でも学校や地域の出来事について話す機会につながると考えられる。

<基本的な生活習慣>

【小学校】

○朝食を毎日食べている。 H21 95.1%→H25 95.4%→H26 95.7% 全国 96.0%

○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 H21 70.2%→H25 75.0%→H26 77.0% 全国 79.2%

○毎日、同じくらいの時刻に起きている。 H21 87.1%→H25 88.6%→H26 89.0% 全国 90.9%

○普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする。

H21 47.7%→H25 53.7%→H26 55.5% 全国 54.7%

【中学校】

○朝食を毎日食べている。 H21 89.9%→H25 91.4%→H26 91.6% 全国 93.5%

○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 H21 64.8%→H25 71.0%→H26 70.7% 全国 74.1%

○毎日、同じくらいの時刻に起きている。 H21 88.6%→H25 90.1%→H26 89.7% 全国 92.1%

○普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上テレビゲームを（コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）する。

H21 45.1%→H25 50.2%→H26 61.3% 全国 56.4%

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は2.0ポイント高くなっていて、中学校は0.3ポイント低くなっている。全国と比べると、小学校は2.2ポイント、中学校は3.4ポイント低くなっている。

また、「普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上テレビゲームをする」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は1.8ポイント、中学校は11.1ポイント高く、21年度と比べると、小学校は7.8ポイント、中学校は16.2ポイントも高くなっている。

このことは、児童生徒の携帯電話やスマートフォンの所有率が高くなったことが影響していると考えられるが、学力づくりの側面からもテレビゲームをする時間については、家庭で約束事を決め、守るよう働きかける必要がある。

<地域との関わり等>

【小学校】

○今住んでいる地域の行事に参加している。 H21 45.8%→H25 46.1%→H26 53.6% 全国 68.0%

【中学校】

○今住んでいる地域の行事に参加している。 H21 27.9%→H25 30.2%→H26 31.2% 全国 43.5%

<社会に対する興味・関心>

【小学校】

○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。 H25 56.2%→H26 63.2% 全国 62.9%

○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。 H25 34.6%→H26 40.7% 全国 42.5%

【中学校】

○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。 H25 48.4%→H26 52.3% 全国 55.6%

○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。 H25 20.8%→H26 25.9% 全国 31.2%

「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は7.0ポイント、中学校は3.9ポイント高くなっている。また、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は7.5ポイント、中学校は1.0ポイント高くなっている。

しかし、全国と比べると、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるものの、今住んでいる地域の行事に参加した体験が少ない傾向がうかがわれる。

<規範意識>

【小学校】

- 学校のきまりを守っている。 H21 81.9%→H25 88.3%→H26 90.4% 全国 90.5%
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。 H21 88.5%→H25 91.5%→H26 94.0% 全国 94.4%
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 H21 92.8%→H25 94.7%→H26 95.8% 全国 96.4%
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。 H21 90.3%→H25 92.2%→H26 93.3% 全国 94.0%

【中学校】

- 学校の規則を守っている。 H21 83.9%→H25 90.2%→H26 91.0% 全国 93.0%
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。 H21 90.0%→H25 92.8%→H26 94.4% 全国 95.3%
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 H21 86.0%→H25 91.3%→H26 90.4% 全国 93.4%
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。 H21 87.4%→H25 91.0%→H26 92.6% 全国 94.0%

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は2.5ポイント、中学校は1.6ポイントとやや高くなっており、小学校、中学校ともに9割を越えている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、25年度と比べると、小学校は1.1ポイント、中学校は1.6ポイントとやや高くなっており、小学校、中学校ともに9割を越えている。

一方、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べると、小学校は0.6ポイント、中学校は3.0ポイントとやや低くなっている。

このことから、各学校では、すべての教育課程を通じていじめを生まない学級や学年、学校の風土づくりをさらに進める必要があると考える。必要な場面では教師が毅然とした対応をおこないつつ、児童生徒自身が集団の一員として、よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる活動の充実が重要である。